

## 熊本大学 工学部 土木建築学科 交通政策分析研究室

円山 琢也 教授



熊本大学 工学部 土木建築学科 交通政策分析研究室  
円山 琢也 教授

## 専門分野

- ・都市交通計画
- ・土木計画

## キーワード

- ・交通調査論
- ・交通ネットワーク分析
- ・交通行動分析

TEL: 096-342-3531 (学科事務室)

E-mail: takumaru@kumamoto-u.ac.jp

Website: <https://sites.google.com/view/takumaru/>

## ■研究室の概要

本研究室は2008年3月に円山が熊本大学に着任し、2011年4月から独立した研究室を開設してからスタートし、今年で12年目になります。土木系の学科の4年生が毎年3-5名程度配属になり、半数程度が院に進学します。現在は、院生も含めて15名程度が研究室のメンバーです。

## ■研究テーマ

教員の学生時代の研究テーマは、交通ネットワークの理論・実証研究でしたが、現在は、交通調査論や交通行動の実証研究のほか、2016年熊本地震以降は震災復興支援の実践的な研究など、研究テーマは広がっています。

スマートフォンのGPS軌跡情報を利用した分析など、新しいデータを利用したITS系の研究テーマも行っていますが、最近では、特に古典的な交通調査データを新しい視点で分析することにも注力しています。

例えば、パーソントリップ調査が世帯のすべての移動を把握できていることに着目し、世帯全員が不在となる状況がどのように変化しているか等の実態を明らかにしています。交通調査は、交通行動を分析するものという発想を転換したものといえるかもしれません。図の熊本都市圏の例では、個人単位の不在率の経年変化は少ない一方、単身世帯増加等の要因による世帯不在率の大幅な増加が確認できます。この分析結果を、宅急便の再配達問題の解決や、訪問調査の効率化、空き巣対策などへ応用することも検討しています。

また、自記式の交通調査では、出発・到着時刻等は、通常10分、15分単位に丸めて回答されます。国際比較すると、日本は10分単位、欧米では15分単位、途上国は30分単位の丸めが多いこと等がわかっています。世界各国で実施されてきた交通調査データから文化による時間認識の違いの一部を解明でき、回答態度の計測にもつながると考えています。

## ■研究室のモットー等

自分が興味があるテーマを楽しく研究することを最も大切にしています。学生が関心をもつ対象について、本人の適性に応じて、研究の方向性を導くのは教員の重要な役割だと思います。優秀な学生にも恵まれ、卒論・修論の成果を国際誌等で発表する機会も増えてきました。また、最近、当研究室から佐藤嘉洋君と渡邊萌君の2人が博士号を取得し、研究職としてのキャリアを始めているのも嬉しいニュースです。今後も、地方都市在住の利点も活かしつつ、他にはないキラリと光る研究成果を目指したいと思います。引き続きご指導等よろしくお願いたします。

